

## 2020年度(第4期) NPO法人ワネッツ 決算短信

2021年5月 NPO法人ワネッツ 事務局

お問い合わせ 事務局 岩崎 (090-5170-9495)

NPO法人ワネッツ(法人番号321000500966)では、2020年度(第4期)の決算を行いました。

### (法人運営を取り巻く状況)

2019年12月、中国武漢を起点とした新型コロナウイルスの国内感染拡大が世界的パンデミックに至り、さまざまな面活動に制約が生じました。しかし、緊急時の実働部隊NEATRを運営する当法人が、感染症ではあるものの、緊急時に何もしない、じっとしていることは、組織の存在理由にも関わるため、リモート対応や机上活動の充実により、これを乗り越えようとしてきました。

その結果、事業数や規模においても、2019年度並みの実績を達成することができました。これは、多くのNPO法人が、活動を見合わせる中、特筆すべきことです。

### (貸借対照表・右上段の図)

資産の部について、普通預金には福邦銀行普通口座、ゆうちょ銀行普通口座の他に、ゆうちょ銀行振替預金口座も含んでいます。定期預金は、ゆうちょ銀行です。

負債の部で、未払金は3月11日実施したドリル関係で、デコーダーのレンタル料金およびZoomの契約金の支払いが4月になったこと、預り金は2021年度の会費および寄付金の前払いによるものです。

今期収支剰余と前期繰越を含めた次期繰越は1,190,078円となりました。

NPO法人ワネッツ 貸借対照表 (2021.3.31 現在)			
資産の部		負債の部	
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
現金	0	未払金	281,600
預金	1,033,678	借入金	0
定期預金	500,000	預り金	62,000
未収金	0	<b>【長期負債】</b>	
<b>【固定資産】</b>		長期借入金	0
有形固定資産	0	退職給与引当金	0
無形固定資産	0	<b>正味財産の部</b>	
その他資産	0	前期繰越正味財産	1,099,059
長期前払費用	0	当期正味財産増加額	91,019
		次期繰越正味財産額	1,190,078
<b>資産の部 合計</b>	<b>1,533,678</b>	<b>負債/正味財産の部</b>	<b>1,533,678</b>

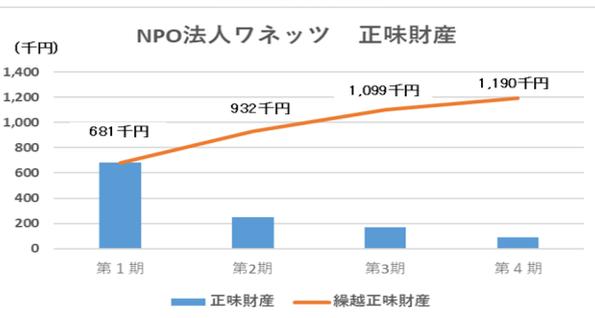
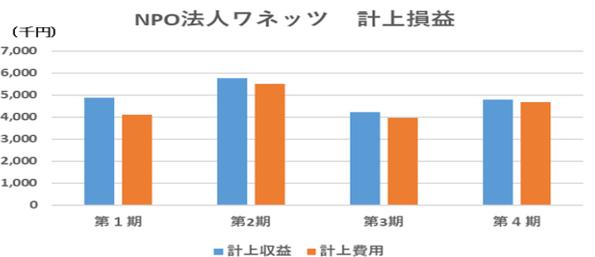
NPO法人ワネッツ 損益計算書および計上費用内訳書 (2020.4.1 ~ 2021.3.31)			
科目	金額	科目	金額
<b>計上収益</b>		<b>人件費</b>	<b>820,000</b>
受取会費	553,000	(内評価支出)	820,000
受取寄付金	707,000	<b>事業支出</b>	<b>2,986,111</b>
事業収入	2,656,100	(内評価支出)	2,200,200
(内評価収入)	2,195,200	会議費	40,955
その他収益	32	(内評価支出)	5,400
物品寄付評価収入	2202	旅費	15,900
労務提供評価収入	861,900	(内評価支出)	15,300
<b>計上収益計</b>	<b>4,780,234</b>	<b>組織活動費</b>	<b>350,394</b>
		(内評価支出)	16,200
<b>計上費用計</b>	<b>4,689,215</b>	<b>事務費他</b>	<b>475,855</b>
特別損失	0	(内評価支出)	2,202
<b>差引正味財産</b>	<b>91,019</b>	<b>計上費用計</b>	<b>4,689,215</b>

### (損益計算書・上下段の図および左図)

計上収益が4,780,234円、計上費用が4,689,215円となり、差し引き91,019円の差引正味財産となりました。なお、計上費用に占める評価費用(無給ボランティア活動を正当評価した額等)の割合は、65.1%となり、前年度の58.4%より、6.7%上昇しました。これは、これはコロナ禍により多くの事業で密集を避けて実施したことにより、自宅等での活動が増えたためです。

計上損益を会計期別でみてみると、第2期より150万円程度収益および費用とも、第3期、第4期は減少しています。これは、第2期で実施した大口受託事業が第3期以降に実施されなかったことが影響しています。

第1期は法人発足のご祝儀的に寄付金が集まったことが、多くの正味財産となりましたが、その後は、収支均衡の考え方のもと、法人を運営しています。



### (収支分析・右図)

収入につきましては、もっとも多く占めるのが事業収入で、3年平均で全収入の55.6%となっています。特例認定NPO法人を維持するためには、寄付金の絶対額(100人以上、3000円以上)を満足させる必要があり、現状では3期連続でこれを満足していますが、第4期に一般公募を開始しても、漸減傾向であり、今後、新たな取り組みが必要となっています。

支出につきましては、前年度と比較して会議費や旅費が少なくなった分、人件費の割合が多くなっています。これもコロナ禍での在宅活動を増やし活動量を保持したためです。

### (次年度に向けて)

まずは、事業規模の衰退傾向に歯止めをかけるため事業の設定、実施を増やしていくこと、次に、特例認定を継続する寄付金獲得を行うこと、最後に、新規会員、隊員の勧誘に工夫をすることが求められます。

